

# 飯高中学校の取組

## 「I-HOPEタイム」

飯高中学校の総合的な学習の時間  
全学年で年間30時間の探究的な活動を計画的に進めています。

## 「I-HOPEデー」

「I-HOPEタイム」の中で、終日探究的な活動をする日  
地域の方や企業の方を講師に迎え、普段できない実験や現地調査、  
施設見学、聞き取り調査等を実施しています。

## 「I-HOPE発表会」

1年間の学習をまとめる発表会を実施しています。

## 「I-HOPEタイム」

生徒は地域を題材にし、自分の興味・関心に基づき、  
「郷土」「環境」「福祉・人権」の3つからコース選択

コース内で同じ課題をもった生徒同士で  
1年から3年の縦割り班を構成して活動

生徒選択したコース内で自ら課題を見つけ、  
その解決方法も自分たちで考えて取り組む。

その成果や結果を他者にわかりやすく伝  
えること（コミュニケーション力）を目  
標に、まとめて発表する会「I-HOPE発表  
会」を開催

津市立美杉中学校と合同で研究発表会を開催し、  
それぞれの探究の成果について発表し合うとともに、意見交流を実施。

# 1 課題設定



- ▶ コロナ禍の中であったため、三重大学山田特任教授に、課題設定をするときの視点やヒントをオンラインで講話していただきました。その中で、「今、飯高町の企業(お店)、地域の方、おうちの方(あなたも含め)などが感じている課題には、どんなことがあるのでしょうか?」という聞き取りのための「飯高町再発見シート」を活用し、生徒が聞き取り調査を行うなかで自ら課題を発見できるようにしました。
- ▶ 一人ひとりのシートからブレインストーミングやウェビング形式で課題案を整理し、深め、コースのメンバー全員で対話をしながら課題設定・検討を進めました。これにより出された課題案が「研究となり得るか」という視点を持って検討しました。
- ▶ さらに、今年度については、自身が発見した課題とSDGsとのつながりに着目し、考察していけるようSDGs17の目標についても念頭におきながら課題設定を行いました。

## 2 情報の収集

【 郷土コース マコモ班 】



飯高町でマコモを有名にするために、マコモを育てたり、アンケートを行ったりしながら、マコモの特徴や知名度等について調査を行いました。また、道の駅での聞き取り調査をふまえ、マコモを使った料理を考えたり、ポスターをつくったりして、マコモの良さを周知する方法について模索しました。さらに、SDGsの「11住み続けられるまちづくりを」と「17パートナーシップで目標を達成しよう」につなげながら発表資料を作成しました。

## 2 情報の収集

### 【 環境コース 鮎班 】



漁業組合の解散に伴う放流の減少により、飯高町の鮎が減少してしまうのではないかと考えました。調べる過程で、櫛田川の水質の悪化が鮎の減少につながっているのではないかとという仮説を立てました。そして、蓮ダムに聞き取り調査に出かけ、ダムの建設が櫛田川の水質にどのような影響を与えたかなどについて調べながら、櫛田川環境を守るための方策を模索しました。調査する中で、水質の悪化に自分たちの生活が関わっていることに気づくとともに、SDGsの「12つくる責任つかう責任」の観点からも考察し、発表資料を作成しました。

## 2 情報の収集

【 福祉・人権コース 子育て班 】



飯高町における10年間の出生数を調べ、飯高町の少子高齢化の現状について実感しました。そこで、飯高町での子育てにおいて困ることについて、飯高町で子育てをしている方を対象にアンケートを行うとともに、「飯高町には大きな病院がない」という理由に着目しました。その過程において、SDGsの「11住み続けられるまちづくりを」を意識した世界の取組に目を向け、飯高町に取り入れられないかについて考察しました。その際には、取り入れた場合における課題についても明らかにして発表資料を作成しました。

### 3 探究活動「I-HOPE発表会」の開催

各班の課題解決の結果を「I-HOPE発表会」において発表しました。

この発表会は、保護者、校区の小学6年生以外にも、探究的な活動でお世話になった企業、市役所、地域の方等を招待して行いました。

また、参観できない保護者には、オンラインで配信しました。

発表は、全てのコースで、調べ学習や活動の記録、活動のまとめ等の発表にタブレット端末を活用してプレゼンテーションを行いました。

さらに、発表後は、1往復半の受け答えを目標にして、質問に対して答えるようにしました。

質疑応答では、質問に対して、調べていないことであっても、これまでの学習をもとに考えたことや感じたことを交えながら回答していました。

友だちの発表を聞いたり、質疑応答を行ったりすることは、より深く探究する意欲の向上につながったと考えます。





## 4 生徒の感想（発表した生徒）

- ▶ 自分たちの考察とは全く違った答えに行きついて、難しかった。でも、自分たちが調べたことが飯高中学校の生徒や宮前小学校の子たちに伝われば自分たちが調べてよかったなと思う。
- ▶ 具体的な結論を出せなかったことに少し後悔しているので、もっと色々な人から意見を聞きたかった。自分一人でスライドの作成等を行ってしまったので、もっと後輩に任せるべきだった。
- ▶ 質問に対する回答をその時に考えられる力を身につけたい。もう少しゆっくりはきはきと話しても良かったと思う。今度は自分が3年でセリフを考えたり、スライドをつくったりしないといけないので頑張りたい。
- ▶ 工夫した点は、スライド作りや限られた時間の中で伝わるようなセリフを考えたことである。また、緊張しながらも、なるべくゆっくりと話すように意識した。質疑応答などで臨機応変に対応する力が身につき、良い経験になった。
- ▶ 質問をされて答えにくい時があったので、発表の内容だけではなく、学んだことを振り返って頭に入れておけばよかった。
- ▶ はじめての発表だったけれど、セリフを見ずに言い切ることができた。発表するまでにお世話になった方々に、発表を通して感謝の思いが届いているといいなと思った。



## 4 生徒の感想（発表を聞いた生徒）

- ▶ おじいちゃんがよく鮎釣りに行っていたのに、今はもう難しいのだと思った。鮎の放流をしないことは知っていて、それが鮎の減少の原因と思っていたが、地球温暖化や産卵場所の減少（ダム建設）が繋がっているなんて思わなかった。
- ▶ 大きな病院がないということは、過疎地域における大きな課題だと思う。取組を探す中で、海外の取組を挙げ、できそうなことを考えたことが分かりやすくて良かった。大きな怪我をするなどして、設備の整った病院が必要な場合、一人の医者では対応しきれないので、解決する方法を今後考えていくことが必要であると感じた。
- ▶ 去年、私が空き地の活用方法について調べたときは、太陽光パネルに着目し活動を行ったが、貸し農園にするということは全く思い浮かばなかった。去年の課題であった「緑がなくなってしまう」という不安も、貸し農園なら補えるなと思った。



## 5 関係者評価（三重大学山田特任教授）

飯高中学校の「I-HOPEタイム」は、「出会い」と「行動」を備えた活動である。

具体的には、「混交林やマコモなど、探究する際の着眼点が多く、多様な視点から考察できている。」、「現地調査等を行いながらつかんだ事実をはっきりと示し、一般的な常識をくつがえすような結論を導き出している。」、「調べることを通して、はじめの問いから問いを深めている。」、「難しい課題に対しても具体的な解決策を導き出している。また、解決策を進める中で想起される課題についても示し、付加価値をどうつけるかということについて考察している。」、「SDGsの世界的な問題と地域の問題と比較して考えている。」など、班ごとにそれぞれの良さが見られた。

全体を通して、最初のテーマから、様々な調査を経て、テーマを深めることができている。また、一般的な考えにとらわれず、事実をもとに考察することができる。さらに、様々な出会いを通して、経験しながら学ぶことが、生徒の自尊感情を育むことにつながるるとともに、教師や地域住民にとっての学びにもなっている。

社会に出たときに求められる力は、出会った問題にどのように向き合い、どのように解決していくかという力である。自分で問題を発見し、解決する力は、自ら課題を設定し、解決していく探究的な活動を行うことで身につくものであり、飯高中学校の「I-HOPE」は中学生にふさわしい探究的な学習になっている。